

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：大学図書館	担当部局：大学図書館
大項目	9 教育研究等環境 《全学的な視点》	
中項目		
小項目	9.0.3 図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。	
要素	図書、学術雑誌、電子情報等の整備状況とその適切性 図書館の規模、司書の資格等の専門能力を有する職員の配置、開館時間・閲覧室・情報検索設備などの利用環境 国内外の教育研究機関との学術情報相互提供システムの整備	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 新設学部設置に関連して必要な学術情報を収集・整理・保存し、利用者へ提供する。	→ 図書館登録蔵書数、年間増加冊数、特定分野の蔵書の増加数、電子ジャーナル数、データベース数	A
2. 学生数の増加に伴う利用環境の整備および利用者支援システムの整備をおこなう。	→ 閲覧座席数（対学生数比率）、オリエンテーション等利用者教育の種類と件数、図書館入館者数、貸出件数（学生一人当たりの冊数）、開館総日数・時間数、4年に1度調査する利用者実態調査に見る図書館満足度・提供サービスの認知度、OPACアクセス件数、ホームページアクセス件数、PC設置数、キャンパス間相互利用件数	B
3. 資料提供サービスや図書資料の目録所在情報整備業務に必要な高度な専門知識や技術を持った職員を育成する。	→ 図書館職員数（資格を含めて）、外部研修会・講習会参加件数、研修会・講習会実施（開催）件数	B
4. 機関リポジトリの登録件数1万件を目指す。また、デジタルコンテンツを毎年1コレクションずつ増やす。	→ 機関リポジトリの登録件数・閲覧件数、デジタルライブラリ公開件数、デジタルライブラリアクセス件数	B
5. 一般公開利用者への提供サービスを見直し、地域の公共図書館との連携を強化して申込者数の増加を目指す。	→ 一般公開利用者登録数、展示企画回数、講演会回数	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目9.0.3	<p>(現状説明)</p> <p>①2009年度は学部・学科の新設による図書資料収集を含め、図書は60,029冊、雑誌は11,629冊を登録した。また、提供可能な電子ジャーナル数は8万タイトル、データベース数は85種となった。</p> <p>②教育・学習・研究支援に必要な図書館環境の向上については、学部の新設に伴い、西宮上ヶ原キャンパスの収容定員数が増加し、2012年度には図書館の閲覧座席数が認証評価基準である収容定員数の10%を下回ることから、閲覧環境を整備するため学長宛に座席数の増設要望を提出し、2010年度予算で10%を下回らない程度の座席増設が予算化された。図書費予算については、2009年度末に繰越制度が廃止され、さらに図書費予算が減額されたため、図書資料購入予算の確保が次第に難しくなっている。また、利用サービスについては、図書館入館者数、学生一人当たりの貸出冊数は昨年度比較でやや低下したが、OPACアクセス件数、ホームページアクセス件数などは増加した。</p> <p>③図書館オリエンテーション等の利用者教育では、図書館ツアーを中心とした「新入生オリエンテーション」については参加者数が減少したが、基礎演習対象の「文献の探し方講習会」では参加者数が昨年度の1.7倍(2,445名)となった。また、研究演習対象「学術情報検索講習」も昨年度の1.4倍(1,877名)の参加者数であった。</p> <p>④機関リポジトリへのコンテンツ登録件数は2000件を超え、2010年度以降授与される博士学位論文については、リポジトリへの登録が原則として義務付けられた。リポジトリの閲覧件数も次第に増加しており、「Ranking web of world repository」(2010.7.10)の調査では、関西学院リポジトリは459位(国内では33位)となっている。また、デジタルライブラリについては、2003年度から継続的に構築しているが、2009年度は「明治・大正の文学者データベース」を構築し、図書館ホームページから7つのコレクションを公開している。</p> <p>⑤地域との連携施策として、一般公開利用制度があり、約200名が登録した。また、年4回の展示会を実施、秋には図書館に所蔵する学術資料「兵庫県漁具図解」をもとにした学術資料講演会を実施し、地域住民との交流を図る場を持つことができた。</p>
☆ その他	

《特定6項目データ》

本項目は数値的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

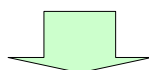
	単位	2004	2008	
指標1 図書館に対する満足度調査	%	79.7% (満足+やや満足)÷回答者	【所蔵資料】学部生:83.8 大学院生:74.6 【施設・設備】学部生:84.5 大学院生:86.9 【各種サービス】学部生:93.9 大学院生:87.7 【開館日・開館時間】学部生:80.7 大学院生:65.6	大学図書館 利用実態調査 (4年に1度)
指標2 図書館主催の講習会の認知度	%	学部生61.6、大学院生81.2	【キャンパスライフABC!】学部生:80.2 【大学院生新入生オリエンテーション】大学院生:83.3 【基礎演習対象新入生オリエンテーション】学部生:92.1 【演習・クラス対象文献の探し方講習会等】学部生:86.5 【個人で申し込む講習会】学部生:73.7 大学院生:74.6	
指標3 相互利用制度の認知度	%	【文献複写】:学部生49.1、大学院生89.3 【図書貸借】:学部生50.2、大学院生87.5 【直接利用】:学部生45.9、大学院生85.0	【文献複写】学部生:31.7 大学院生:79.1 【図書貸借】学部生:35.3 大学院生:70.9 【直接利用】学部生:24.1 大学院生:58.6	
指標4 HPから提供しているオンラインデータベースの利用度	%	学部生33.3、大学院生73.7	学部生:30.8 大学院生:62.0	
指標5 職員の対応に対する満足度調査	%	(満足+やや満足)÷回答者 【貸出返却】学部生77.9、大学院84.3 【レファレンス】学部生79.8、大学院生91.3	【貸出返却】学部生:95.5 大学院生:96.4 【レファレンス】学部生:94.4 大学院生:95.2	

	単位	2006	2007	2008	2009	2010	備考
指標6 図書館登録されている蔵書数	冊	1,734,016	1,783,270	1,806,384	1,867,436	—	図書、定期刊行物
指標7 年間増加冊数	冊	53,442	52,354	53,445	71,658	—	図書の受け入れ状況
指標8 収容定員における座席数の割合	西宮上ヶ原	%	11.7	11.3	11.2	10.6	10.5
	神戸三田	%	11.8	11.0	11.0	12.9	12.1
	西宮聖和	%	—	—	—	46.9	30.9
指標9 学生一人あたりの貸し出し冊数	冊	9.2	8.7	9.0	8.7	—	
指標10 図書館入館者数	西宮上ヶ原	人	794,862	764,187	783,841	773,454	—
	神戸三田	人	310,361	301,916	310,858	290,296	—
指標11 HP閲覧件数	件	—	255,164	274,290	279,623	—	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

★	小項目9.0.3	多くの学生が読書の楽しみを知り、図書館に親しんでもらうための施策として、教員に図書を推薦してもらい、その図書を集めて展示する「先生のおすすめの本」コーナーを設置した。また、新聞書評に掲載された図書をまとめて配架する「新聞書評掲載図書」コーナーを設置した。学生諸君の反響が大きく、コーナーの書架は常に利用されている状況であった。教育・学習を支援する活動として、これらの取り組みを実施し効果的な利用提供をすることができた。また、図書館利用者へ選書、発注、受入、分類、目録、装備などの図書館内部の業務を広報することによって図書館への認知度を上げることを目的とした「図書館のなかみ」を作成した。このパンフレットは学内外からの反響が大きかった。
	その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

★	小項目9.0.3	2008年度に実施した「図書館実態調査」において、「図書館に小説を置いてほしい」という利用者からの要望に応えるため、文庫コーナーに「新潮文庫」を追加設置する。また、新入生のレポート作成や上級生の卒論・研究論文作成に役立つ文献を集中的に配架した「レポート・論文作成関連図書」コーナーを新設することにより、教育・学習・研究支援サービスを充実し、更なる利用促進を行う。
	その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項	
★ 小項目9.0.3	図書館利用者に快適な環境を提供・維持するため、増加し続ける図書資料を収容する書庫スペースの確保が必要である。図書館資料の充実が教育研究上必要不可欠なものであるが、近年のシリアル・クライシスによって学術雑誌、電子ジャーナル、データベースの価格が高騰し、図書館予算を圧迫している。2009年度末には図書費予算の繰越制度が廃止され、さらに図書費予算が減額されたため、大学の基盤である図書資料購入予算の確保が次第に難しくなり、教育研究活動に支障をきたす恐れがあるため早急な図書費予算の増額が必要である。
その他	

↓

【次年度に向けた方策(2)】改善方策	
★ 小項目9.0.3	書庫スペースについての改善策として、2013年度に自動化書庫を新設する計画が進んでいるが、書庫完成までの間は業者に委託し外部保管せざるを得ない。また、学術雑誌、電子ジャーナル、オンラインデータベースの購読維持については、次年度も公私立大学コンソーシアムに加盟し少しでも安価に購読契約できるよう努力するが、図書費予算の増額なくしてはどのようにもならない厳しい状況になりつつある。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】	
★ その他 (自由記述)	大学リポジトリの登録コンテンツの収集(充実)については、教員への働きかけを継続的に行っているが、まだまだ全学的な認知度が不足しているのが現状である。2010年度以降に授与される博士学位論文については、原則として大学リポジトリに登録することが決定している。

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○利用者の便宜を図るための様々な取組が進められ、学生からの満足度が高いことは、評価できます。図書館の認知度を高め、多くの学生が読書に親しむための工夫が、今後も継続的に行われることが期待されます。

【学内委員】

○全体的に誠実な自己点検・評価であり好感が持てます。

○予算が厳しい中、工夫され数々の企画を実行されています。

○図書館の入館件数が年々下降していることが気になります。これはネットワークの進展によるものでしょうか。その辺りの分析と対応が期待されます。

○座席数については、迅速な対応により改善され、大学基準協会の「評価に関して留意すべき事項」(ハンドブックP78～)において示されている基準をクリアしました。しかしながら、適正な座席数については限られた資源であることを踏まえつつ、絶えず検討が必要でしょう。

○掲げられた目標についても説明があれば、よりわかり易いと思います。

○電子情報の整備についての現状説明と今後の計画などについて、いまだ記述のあることが期待されます。

○高度な専門知識や技術をもった職員の育成に対する取り組みが行われ、一定の結果を残していることは評価できますが、一層の努力が望まれます。

○大学基準協会の「評価に際し留意すべき事項」(ハンドブックP78～)に留意してください。ここで示されていることについて現状説明していくことも基準の自己チェックにもなり有効です。基準に達していない場合は、必ず記述してください。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 電子情報の整備について、大学図書館では出版社単位(契約)で冊子から電子ジャーナルへの媒体変更を進めている。そのために公私立大学のコンソーシアムに参加し、情報を入手し購読価格を少しでも抑えて契約する努力も継続している。今後とも全学の教育研究活動に不可欠なインフラとして、電子情報の充実・整備を図る必要があると考えているが、そのためには、全学的な電子情報充実予算の確保が必要になる。

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

9.0.0.S25	図書館に満足している学生の比率
9.0.0.S26	図書・資料の所蔵数
9.0.0.S27	大学図書館の年間開館日数
9.0.0.S28	図書館の利用者数・入館者数
9.0.0.S29	図書・資料の貸出数
9.0.0.S30	図書館の地域への開放の状況
9.0.0.S31	大学図書館職員の対応を好意的に捕らえている学生の比率
9.0.0.S32	図書館主催講習会の受講者」の回答比率および講習会開催の認知度
9.0.0.S33	Nacsis-Catの登録件数
9.0.0.S34	大学図書館HPから提供しているオンラインデータベースの認知度
9.0.0.S35	大学図書館相互利用制度の認知度
9.0.0.S36	大学図書館ホームページへのアクセス数

<個別的な指標>
